



2023~2024年度  
国際ロータリーテーマ



# UEDA EAST

## 上田東ロータリークラブ

第2600地区 東信第2グループ 創立1978.6.14

世界に希望を生み出そう

# WEEKLY REPORT

## JUNE.5.2024 第2105回

会長/上原 達 幹事/松山賢太郎 会報委員長/玉井権太郎

例会：毎週水曜日 午後12:30 ~1:30

会場：上田東急REIホテル

事務局：上田市天神4-24-1 上田東急REIホテル 3F  
TEL 0268-21-3500 FAX 0268-21-3501

URL: <http://www6.ueda.ne.jp/~uedaeast-rc/>  
E-mail: [uedaeast-rc@po6.ueda.ne.jp](mailto:uedaeast-rc@po6.ueda.ne.jp)

## 映画館が子どもたちの居場所になるということ



うえだ子どもシネマクラブ代表 直井 恵様

「学校に行きたくない日は映画館へ！」

をコンセプトに、子どもたちの新たな居場所として映画館を活用する「うえだ子どもシネマクラブ」。日頃「学校に行きづらい」をキーワードに集まる子ども

たちと接するたび、魅力あふれる個性に次々と出会います。「魚の話をするとうまらなひんです」「椅子に座るより、床の上の方が落ち着く」「読書を途中で止められる(15分読書)のがダメでした。あれは読書とは言わない」…等々。きっと集団の中では目立ってしまうでしょうし、彼らの個性に対する社会からの反論は多いに想像できます。でもこんな立派な個性と意思を持つ子ども達を、ただただ平たくしていく事が「良し」とされる日本の常識(教育)は果たして「正しい」ことなのか…。自問する日々でした。

この国の子ども若者の死亡理由の第一位が自死という現実がなかなか変わりません。必死で泳ぎ続けている子どもたちが「苦しい、どうにかして」と悲鳴をあげているのに、変わる気配がない。そんな中、社会システムからずっと気軽に「避難」できるように「安心してここにいていいよ」と言える場として、私たちは上田映劇に子どもや若者たちの居場所を作りました。

### 学びの場としての映画館

休館日の月曜日に月2回開催する上映会は、こどもだけでなく、保護者も先生たちも参加可能です。毎月4作品を興行上映の中からセレクトし、上映会の情報をメールやSNSで発信したりSSWや市町村の教育委員会を通じて各学校の不登校を担当する先生宛にチラシを送付して周知しています。始める当初から、映画は学びにつながる素晴らしい媒体だという確信があったので、各市町村の教育委員会をまわりながら、映画と学びの相性の良さを先生たちにお伝えしていきました。(中略)

映画館は特に誰かと話しをしなくても過ごせる独特な場です。「個」を保ちつつ、スクリーンと対峙しながら、劇場という公の場で他者と物語を共有する。外に出るのが苦手なお子さんが「この映画が観たい！」と映画館に

足を運んだり、先生と映画館で初対面を果たした、という事象が何度か起きたり。子どもたちが行ってみたいと思える場としてのあり方や可能性について、こちら側が学ぶことばかりでした。



### 何もしなくてもいれる映画館

次第に「上映会以外の日にいる場所がなくて困る！」という声がちらほら聞こえはじめたことから、平日の映画館がオープンしている時間にも子ども達を受け入れることも始めました。幸い映画館にはやる事がたくさんあったので、館内のポスターの貼り替え作業やチラシの整理や掃除などを中心に手伝ってもらったりしますが、作業があまりない日などはおしゃべりして過ごしています。すると、彼らからいろんな「本音」が出てくるようになりました。学校の先生との関わりや、家の話など。中でも特に「昼間、いる場所がない」という事について、話題がよく上がりました。「何もしないでうちでダラダラ過ごす」事に後ろめたさを感じる子が多く、それは働いていない若者たちも一緒でした。子ども達は学校に入学すると同時に進学、就職等々、常に目的を持つように教えられる機会が非常に多く、でも目的そのものがプレッシャーになったり、生きることに困難を感じるほどの圧力になってしまっていると彼らは言います。社会全体が慌ただしく過ぎ去るなかで「何もしなくても、その日1日が心満たされて安心のうちに終わる」という時間と場所の確保はとても大切です。エネルギーを溜めたり、自分を見つめる時間として平日の映画館にみんながいられると良いと思うようになってきました。

「嫌なことを忘れて楽しめる場所。」

「映画で心が癒される。」

「映画館に行くこと応援してくれる人がいっぱいいるから嬉しい。」

このシンプルな言葉が表すように、子どもたちが日常の嫌なことを忘れて、ワクワク楽しい時間と場に出会えることを日頃イメージしながら場を開いています。まずは映画館に「避難」して、充電できる時間をみんなで支えることができたらと思っています。

